



# 十二月 (大) 師走

しわす

奎宿 (十一月七日大雪の節より 月命壬子七赤金星の月 暗剣殺西の方)

旧 十月大 十一月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六種	中段	共宿	下段	日出	月入	満潮	干潮
1日	金	みづのえいぬ	二黒	映画の日、鉄の記念日、世界エイズデー、歳末助け合い運動、一粒万倍日、旧十月大	十四	大安	とつ	牛	ぶく日	6.32	16.28	14.57	3.11
2日	土	みづのとみ	一白	八せん終り、三隣亡	十五	赤口	たつ	女	くま日	6.33	16.28	15.38	4.20
3日	日	きのえ	ね一白	秩父夜祭、障害者週間、天しや、九星陽通始め、甲子	十六	先勝	のぞく	虚	よろづ	6.34	16.28	16.26	5.30
4日	月	きのと	うし二黒	○望〇時四七分、人権週間	十七	友引	みつ	危	くま日	6.34	16.28	16.26	5.30
5日	火	ひのえ	とら三碧	納めの水天宮	十八	先負	たいら	室	天おん	6.35	16.28	18.20	6.40
6日	水	ひのと	う四緑	小田原秋葉権現火防祭	十九	佛滅	さだん	壁	神よし	6.36	16.28	19.24	8.52
7日	木	つちのえ	たつ五黄	大雪七時三分、旧えびす講、旧習文払い、不成就日	廿	大安	さだん	奎	天おん	6.37	16.28	20.31	9.48
8日	金	つちのとみ	六白	納めの薬師、成道会、己巳、こと納め、針供養	廿一	赤口	とる	婁	十し	6.38	16.28	21.37	10.37
9日	土	かえう	ま七赤	京都了徳寺大根焚き、漱石忌、大つち、岡山最上稲荷火焚祭	廿二	先勝	やぶる	胃	ちいみ	6.39	16.28	22.42	11.19
10日	日	かのと	ひつじ八白	○下弦一六時五十分、世界人権デー、納めの金毘羅、大宮氷川神社大湯祭	廿三	友引	あやぶ	昴	大みやう	6.39	16.28	23.44	11.57
11日	月	みづのえ	九紫		廿四	先負	なる	畢	百事吉	6.40	16.28	12.32	—
12日	火	みづのとみ	一白		廿五	佛滅	おさん	觜	神よし	6.41	16.28	16.28	—
13日	水	きのえ	いぬ二黒		廿六	大安	ひらく	参	—	6.42	16.29	16.29	—
14日	木	きのと	る三碧	東京高輪泉岳寺義士祭、一粒万倍日	廿七	赤口	とつ	井	ちう日	6.42	16.29	17.28	13.04

一年の締めくくりの月であり、年間を通じて最も日の短い月である。この月の別名として「師走」の呼称が通例になっているのは、やはり一般に師匠までも走り出す月、という人間味を伴った語感のせいであろうか。

年の最後の月として、各地でいろいろな行事や祭りがあがるが、だいたいが納めや供養である。

今年一年間の喜び、反省等、それらを思い返し、整理すること、来る年への指針となし期待を持ち、そして自戒するべきものがあれば心に誓うべきであろう。

【祭】歳暮とは元來年の暮のことであるが、日ごろ世話になつていたり人や親戚などへの贈り物がいつのころから「お歳暮」というならわしになつた。

正月始めは、この月の八日か十三日から、正月を迎える準備をし始めることを

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六種	中段	共宿	下段	日出	月入	満潮	干潮
15日	金	ひのえ	ね四緑	年賀郵便特別扱い、一粒万倍日、東京世田谷ポロ市、不成就日	廿八	先勝	たつ	鬼	大みやう	6.43	16.29	16.29	21.37
16日	土	ひのと	うし五黄		廿九	友引	のぞく	柳	大みやう	6.44	16.29	17.28	22.12
17日	日	つちのえ	ら六白	東京浅草観音歳の市、伊勢神宮月次祭、奈良春日大社若宮おん祭、小つち、三隣亡	卅	先負	みつ	星	きこ	6.44	16.30	18.30	22.45
18日	月	つちのと	う七赤	●朔一五時三〇分、納めの観音、旧十一月大	朔	大安	たいら	張	●	6.45	16.30	19.22	23.18
19日	火	かえ	たつ八白		二	赤口	さだん	翼	天おん	6.45	16.30	20.19	23.49
20日	水	かのと	み九紫		三	先勝	とる	軫	十し	6.46	16.31	21.15	24.12
21日	木	みづのえ	ま一白	納めの大師	四	友引	やぶる	角	百事吉	6.47	16.31	22.07	24.45
22日	金	みづのえ	ら二黒	冬至一時二八分、ゆず湯、不成就日	五	先負	あやぶ	亢	天おん	6.47	16.32	23.01	25.18
23日	土	きのえ	ら三碧	回天皇誕生日、十方ぐれ入り	六	佛滅	なる	氐	大みやう	6.48	16.32	24.01	25.51
24日	日	きのと	う四緑	クリスマス・イブ、納めの地藏	七	大安	おさん	房	神よし	6.48	16.33	25.07	26.24
25日	月	ひのえ	いぬ五黄	クリスマス、終い天神、蕪村忌	八	赤口	ひらく	心	五む日	6.48	16.34	26.14	27.00
26日	火	ひのと	ら六白	●上弦一八時二〇分、一粒万倍日	九	先勝	とつ	尾	大みやう	6.49	16.34	27.22	27.54
27日	水	つちのえ	ね七赤	一粒万倍日	十	友引	たつ	箕	くま日	6.49	16.35	28.31	28.27
28日	木	つちのと	ら八白	官庁御用納め、納めの不動	十一	先負	のぞく	斗	—	6.49	16.36	29.40	29.00
29日	金	かえ	とら九紫	三隣亡	十二	佛滅	みつ	牛	きこ	6.50	16.36	30.49	29.59
30日	土	かのと	ら一白	不成就日	十三	大安	たいら	女	●	6.50	16.37	31.58	30.58
31日	日	みづのえ	ら二黒	年越し、大はらい、男鹿なまはげ、除夜の鐘、出羽三山松例祭	十四	赤口	さだん	虚	大みやう	6.50	16.38	33.07	31.57

いう古い習慣で、すす払いから着手したものである。二十二日前後に二十四節気の一つ「冬至」がある。この日北半球では最も日が短く、この日を境に日脚が延びるので、地方によりそれぞれ行事を持つている。「ゆず湯」に入る習慣は全国的に知られている。二十三日は「天皇誕生日」である。

二十五日はキリストの降誕日、その前夜の「クリスマス・イブ」とともに、欧米では正月よりも盛大に祝う。わが国でもキリスト教とは関係なくツリーを飾ったり、プレゼントをし合ったりする家庭も多い。

新年を迎える飾り物は、三十日までにととのえるが、二十九日は苦節り、三十日は一夜飾りといつて嫌うので早目の準備を心掛けよう。

大晦日(おみそか)の夜は神棚にお灯明をあげたり、年越しそば(みそかそば)を食べたり、神社や寺院に参詣したりし、その土地土地によって独特の習慣を持つていたりする。